

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800816		
法人名	株式会社 ホームケアサービス		
事業所名	グループホーム いやし屋本舗		
所在地	〒813-0032 福岡県福岡市東区土井 1丁目25番7号 (ケアレジデンス青葉1F) TEL 092-691-1036		
自己評価作成日	令和06年01月10日	評価結果確定日	令和06年03月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームもそろそろ20年目を迎えるようであり地域にもすっかり定着している ホームを取り巻く環境も月日が経った割には、さほどの変化もなく そんな 穏やかな環境の中で利用者一人一人が安心安全に生活出来るグループホームです。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	TEL	093-582-0294
訪問調査日	令和06年03月05日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「いやし屋本舗」は、開設19年目を迎える、定員9名の家庭的な雰囲気のグループホームである。利用者一人ひとりの声を聴いて、朝方の散歩、編み物、針仕事、ジグソーパズル、折り紙、塗り絵等、基本理念である「九人九色の暮らしをサポート」を実践している。提携医療機関医師と訪問看護師、ホーム看護師との連携で24時間利用者の健康管理に取り組み、看取りにも取り組んでいる。コロナ禍で面会が制限された家族の不安な気持ちに寄り添い、手描きのホーム便りを毎月送付し、写真や動画を頻繁に送って利用者の暮らしぶりを伝えることで家族の安心に繋げている。「おはよう」から始まって「また明日」で終わる和気藹々とした一日を大切に過ごし、利用者職員が信頼関係を築き、明るい笑顔と笑い声が溢れる、グループホーム「いやし屋本舗」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

3 評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営				
1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の基本理念である九人九色を大切にし管理者及びスタッフ全員で利用者様 各々の要望を伺い実現に向けて努力している。	「九人九色の暮らしをサポート」を理念に掲げ、利用者の、「～したい」を最大限に尊重し、一人ひとりの暮らしを大切に介護サービスに取り組んでいる。また、地域密着型事業所として地域から介護や認知症の相談を受ける等、地域から頼りにされるグループホームを目指している。	
2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会・町内会・地域包括支援センターとは運営推進会議を通して交流が再開出来ました。	コロナ感染対策以前は、地域の祭りや文化祭、ふれあいサロンに参加したり、ホームの行事には家族やボランティアも含め沢山の参加があり、活発に交流していたが、現在は自粛している。また、中学生の職場体験受け入れや、毎月行っていた他グループホームとの合同レクリエーションや保育園との交流再開に向けて検討を始めている。	
	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との交流を通して理解や支援が得られるようになっていきます。		
3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて各委員会活動の報告を行っています。活動報告について外部の方より御意見やご質問を頂きました。	「地域との連携・運営推進会議」は、自治会会長をはじめ複数の地域代表、家族、地域包括担当者の参加を得て開催している。ホームの運営や入居者状況、行事、レクリエーション等について報告し、意見や質問、情報提供を受けて話し合い、ホーム運営や介護サービスに反映させている。	外部委員の意見を議事録に掲載する等、コロナ収束後の会議開催に向けて繋がりを継続していく取り組みを期待したい。
4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	福岡市福祉局高齢社会部事業者指導課よりの周知に対して回答を行い、問い合わせを行って協力関係が出来ている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、ホームの現状を理解してもらい、アドバイスや情報提供を受けている。行政や社協主催の行事や研修会に積極的に参加し、行政職員と情報交換しながら連携を図っている。	
5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度以上の身体拘束廃止委員会の開催を行い、報告及び研修を行っています。(新入職員に対しては入職一週間以内に研修を行っています。)	ミーティングを毎月定期的に行い、身体拘束と感染予防の研修を交互に行い、職員全員への周知を図っている。禁止行為の具体的な事例を挙げて検証し、スピーチロックについては特に注意し、職員間で常に話し合っている。	
	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会よりの報告及び研修を行っています。(新入職員に対しては入職一週間以内に研修を行っています。)		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見人制度については、資料を準備何時でも閲覧出来るようにしている。研修は、6か月ごとに行っています。(新入職員に対しては入職一週間以内に研修を行っています。)	権利擁護制度の資料やパンフレットを用意し、利用者の意思決定が困難になる前に、家族や関係者と相談しながら制度を利用できるように支援している。内部研修で資料を職員に配布して制度について学ぶ機会を設け、理解を深めている。	
	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約及び解約の際は、書面による説明を行い、充分理解し納得された後で契約を頂くようにしている。		
7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に苦情箱を設置し、利用者様利用者様のご家族様の苦情や要望にお応えするようにしています。	コロナ禍の時には玄関先で面会をお願いしていたが、新型コロナウイルス移行に伴い、現在は面会に規制は設けていない。家族面会時や電話等で、家族の意見や要望、心配な事等を聴き取り、ホームの運営や介護サービスに反映させている。月1回のホーム便りの発行と利用者の写真や動画を頻繁に送り、家族の安心に繋げている。	
8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員に対しては、個別に聞き取りを行い、まとめた要望書を本部に提出し改善に向けた話し合いをしている。	毎月第3金曜日にミーティングを開催し、初めの30分は研修を行い、その後、カンファレンスの中で、利用者一人ひとりについての情報交換を行っている。毎回職員の司会と書記を代えて意見や要望を聴き取り検討し、幹部会議に報告してホーム運営や業務改善に反映させている。	
	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境改善や労働条件、職員の待遇改善など話し合いを行い、改善努力している。		
9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用には年齢・性別・国籍にとらわれず採用しているが、処遇や勤務内容等の説明を行ったうえで採用としている。在職中の職員には、各々の能力を発揮出来るような職場作りを目指しています。	職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はなく、採用後は各種研修の受講や資格取得を奨励し、職員が意欲的に働ける職場環境を整えている。管理者は職員一人ひとりの特技や能力を把握し、適材適所に役割分担して、職員が生き生きと働くことが出来る支援に取り組んでいる。	
10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員に対しては、常に利用者様に対し人権尊重の意識付けを行い、人権尊重についての研修を行って、啓発活動を行っています。	利用者の人権を守る介護の在り方を、職員会議の中で資料を揃えて研修する機会を設け、職員一人ひとりにレポートを提出してもらっている。理念、「九人九色の暮らしをサポート」の下、利用者の思いを尊重した支援に取り組んでいる。	

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の適正に応じたトレーニングを行い、施設内での研修のみならず、外部研修にも参加するようにしている。		
	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状は地域のグループホームや幼稚園との交流会を開催出来ていないが今後は再開する予定です。グループホーム協議会の主催するオンラインでの研修会への参加は出来ている。(知り得た情報はスタッフ全員で共有している)		
心と信頼に向けた関係づくりと支援				
	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しく入居された利用者様に対しては常に傾聴する姿勢で向かい合い、要望、苦情を聞くようにして信頼関係を構築し、より良い生活環境の実現を目指している。		
	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望や困りごとを聞き取り、利用者様及びご家族様共に納得頂けるサービスの提供を目指している。		
	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様及び利用者様が必要とする支援内容について話し合いを行い、納得して頂けるプラン作りを行っています。		
	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員・ご利用者の関係ではなく、暮らしを共にする者同士の関係改善に努力している。		
	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係に留意し遠慮せずに話し合える関係づくりを大切にしている。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族も含め、入居される前にお付き合いのあった方との交流が継続出来る様な環境を提供している。	近所から入居された方が多い為、自宅のことが気になったり、友人宅に行きたいという利用者もいて、コロナ状況を判断しながら、外出や面会に取り組み、家族や友人と電話で話してもらおう等、これまでの馴染みの関係が途切れないように努力している。	
	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様を尊重しつつ、他の利用者様との円滑なコミュニケーションが取れるように配慮しています。		
	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約解除(退所後も含む)後も利用者様のご家族と良好な関係を維持し、相談や支援ができるようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人に寄り添い、傾聴することで、希望や意向をお伺いし実現に向けて努力している。	ホームでの日常会話の中から、職員は利用者の思いや意向を把握し、職員全員で情報を共有しながら希望の実現に向けて取り組んでいる。自己選択、自己決定が困難な利用者には、家族と相談したり、職員間でこうじゃないかなど利用者の気持ちを想像しながら本人本位に検討している。	
	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活について聞き取りを行い、生活環境や人との関わりを伺うように配慮出来る限り今までの生活の延長線上にありたいと思い支援しています。		
	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご自身で出来る事や支援が必要な事を見極めてお世話を行うようにし、メンタル面の変化に注意を行います。		
13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングを通して全ての職員から聞き取り調査を行い、介護記録やケアプランに反映するようになっています。(変更が必要な場合は、直ぐにご家族様に連絡しています。)	利用者や家族の意見や要望、心配な事を聴き取り、担当者会議の中で話し合い、主治医の意見を参考にし、利用者本位の介護計画を6ヶ月毎に作成している。利用者の状態に変化があれば、担当職員がケアマネージャーに報告し、現状に即した介護計画をその都度作成している。	

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を利用者ごとの記録に残し、日中及び夜間帯の様子を申し送り事項として職員間で情報共有し、カンファレンスにて検討し、介助・介護計画の見直しをしている。		
	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者やご家族の現状を把握し外出や外食等、利用者様やご家族様の要望にお応えできるよう柔軟な対応を心がけています。		
	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の能力を把握して、無理のない範囲ではありますが、イベント等にも参加して楽しい生活が送れるように配慮しています。		
14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定及びご本人の様子観察を行い、担当ドクターに報告し、急変時には往診依頼をかけ、その旨をご家族に連絡しています。	入居時に、利用者や家族の希望を優先して主治医を決めている。提携医療機関医師による2週間毎の往診と緊急時の対応、ホームの看護師、訪問看護師、介護職員が連携して24時間利用者の健康管理を行い、安心して任せられる医療体制が整っている。	
	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週2回看護師に入ってもらい、利用者様の健康管理について話し合いをして、訪問診療の際には、同席して意見を述べていただいている。		
	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、担当ドクターや看護師及びソーシャルワーカーと密に連絡を取り現状の把握と早期退院が出来るように家族も含めて取り組んでいます。		
15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の際には、重度化した際や終末期医療についての説明を行っています。(重度化した場合には再度ご家族様の意向を確認し対応しています。)	重度化や終末期の方針について、利用者や家族に説明し、入居時に家族の要望書を書いてもらっている。利用者の状態に変化が生じると、主治医を交えて家族と話し合い、今後の方針を確認して看取りを希望される場合には、看取りの確認書で再度承諾を得ている。関係者で方針を共有し、チームで看取りに取り組んでいる。	

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変時の対応方法は急変時対応マニュアルを熟読し、緊急時に対応出来るようにシミュレーションをしている。		
16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	当施設のあるケアレジデンス青葉の防災訓練に参加し、毎月一回当施設内で火災が発生した事を想定して避難訓練を行っています。	年1回、消防署の指導を受けながら、建物全体の合同訓練に参加している。また、月1回ホーム独自の火災想定避難訓練として、玄関に出てもらって名札をして確認することを繰り返し訓練し、利用者全員が安全に避難出来る体制を整えている。非常食や飲料水、カセットコンロ等も準備している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフによる声掛けの際には子ども扱いするような言葉にならないように注意し、入浴介助や排泄介助には、自尊心及び羞恥心に配慮しています。	利用者のプライバシーを尊重する介護の在り方を、職員会議の中で話し合い、トイレ介助の時にはひざ掛けを、お風呂介助の時にはちょっとバスタオルをかけるといった対応を心掛け、羞恥心に配慮している。また、利用者の個人情報や職員の守秘義務については、管理者が常に職員に説明している。	
	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で他の利用者様とお話をする機会を作ることで思いやご希望を伺い、その実現に向けて取り組んでいる。		
	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	臥床・起床・食事・入浴など利用者様の生活リズムを大切にしています。		
	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回は訪問理美容に来てもらっています。衣服に関しては季節に合わせたコーディネート提案しています。		
18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日のメニューについては利用者様のご意見を伺い、栄養バランスを考えたいうで出来る限りお好みに合わせる様にし、盛り付けや後片付けのお手伝いをして頂いています。	配食サービスを利用しているが、美味しく食べてもらうため、味見をして職員がひと手間加えて提供している。月に一度は配食を止めて、利用者のリクエストに応じて作る作食会を開催し、利用者大変喜ばれている。利用者と一緒に料理の盛り付けをし、団子を丸める作業をしたりして、「食」を楽しめるよう工夫している。	

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えご利用者様の咀嚼・嚥下の状態に合わせ、常食・刻み食・ミキサー食・ムース食を用意しています。必要に応じてとろみ剤を使用して提供しています。		
	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食事の前には、唾液の分泌を促す為に口腔ケア体操を行っています。食後は、声掛けを行い口腔ケアに誘導し、ご自身で難しい場合は、スタッフによる介助を行っています。		
19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はタイムスケジュール表を参考にトイレへの声掛け及び誘導を行い、無理のない排泄が出来るように配慮しています。	職員は、利用者の排泄パターンや生活習慣を把握し、早めの声掛けや誘導を行い、利用者が重度化しても、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。また、夜間は利用者の希望や体調に合わせて、トイレ誘導やポータブルトイレに対応し、安易にオムツをしない体制を整え、日中は布パンツを使用する等、オムツやリハビリパンツの使用軽減にも取り組んでいる。	
	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のレクリエーションへの参加を促し、座ったままの状態にならないように注意し、日中の水分摂取量を検討し好きな飲み物をお出ししています。		
20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日中の入浴スケジュールにとらわれずに、ご利用者の体調に合わせて入浴して頂いています。(失禁のあった日などは入浴スケジュールでない日でも入浴して頂いています。)	入浴は、月曜日から土曜日までに実施し、週2回は入浴してもらっているが、毎日入りたい利用者には、状況を見ながら適宜に行っている。利用者の気分や健康状態に配慮しながら、無理強いせずに、清拭や足浴に変更することもある。また、入浴は、利用者と職員がゆっくり会話ができる大切な時間と捉え、コミュニケーションに努めている。	
	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様のお好みの室温に調整して、過ごしやすい環境を提供しています。		
	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員で、ご利用者様の服用しているお薬を把握して服用して頂いています。処方薬の変更がある場合は、様子観察を行い、主治医に報告を行うようにしています。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の趣味趣向に合わせて楽しんで頂ける様にパズルやカラオケを準備して楽しんで頂いています。		
21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出や外食等、ご本人様の要望を伺い、ご家族と調整のうえ外出等が出来るように配慮しています。	新型コロナウイルス対策の為、全員での人混みへの外出は控えている。気候が良くなれば、お風呂のない日曜日に出かけようと外出レクの検討も始まっている。新型コロナ「5」類移行に伴い、コロナ状況を判断しながら、希望があれば家族との外出や外食が出来るよう支援している。	
	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を払って物を買うと言う行為を取り上げる事なく今までどりの生活が送れる様に支援します。		
	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話やお手紙など、ご自身でして頂き、難しい場合は、必要な支援をしています。		
22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が安心して暮らせる様にリビングや居室の環境整備を行っています。リビングや通路には季節を感じて頂けるように掲示物等を工夫しています。	リビングルームは、季節毎の飾り物を飾り、音や照明、温度や湿度、換気に注意し、明るく清潔な共用空間である。こまめに消毒を行い感染症対策も徹底している。6階建ての1階に位置し、ホーム内は家庭的で、居室の一部や廊下を畳敷きにして、落ち着いた雰囲気的生活空間である。	
	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特にお席は決めずにその日にお好きなお席で過ごして頂くようにしてしている。		
23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新規入居の際には、今までお使いの物をお持ち頂いて住みやすく、安心して暮らせる様に配慮しています。	利用者の馴染みの家具や身の回りの物、家族の写真等大切な物を家族の協力で持ち込んでもらい、馴染みの物に囲まれて利用者が安心して過ごせるよう配慮している。1日2部屋ずつ掃除機をかけ、モップ拭き、拭き掃除、布団干しを行い、清潔で気持ちの良い環境の居室である。	
	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身の生活にあった環境を提供して、必要以上に介入しないで自立した生活を送って頂くようにしている。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム いやし屋本舗作成日: 令和 6 年 3 月 23 日

目標達成計画書

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	15	職員を育てる取り組み	誠実で人柄の良い職員が多いので、職員一人ひとりの育成に力を入れて取り組み、スキルアップに繋げていく。	OJTによる新人教育や職員一人ひとりに応じた研修受講、資格取得を奨励し、職員全員が向上心を持って学びながら働ける職場環境や仕組みを整備していく。	12ヶ月
2	16	同業者との交流を通じた向上	同法人内の他事業所や近隣のグループホーム等、同業者と交流する機会を設け、サービスの質の向上に繋げていく。	勉強会や相互訪問(運営推進会議への相互参加)等を通じて協力関係を築き、情報交換しながら質の向上に取り組んでいく。また、ネットワークへの参加等、横の繋がりを意識した活動に少しずつ取り組んでいく。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。